

CASBEE-建築(新築)2016年版
プロジスパーク京田辺

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.6
Q1 室内環境							0.30	-	-	3.2
1 音環境						3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音		床:タイルカーペット、天井:ロックウール吸音板				4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						2.5	0.35	-	-	2.5
2.1 室温制御						3.2	0.50	-	-	
1 室温		外壁に断熱性能の高いサンドイッチパネルを採用				3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能						4.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.3	0.25	-	-	3.3
3.1 昼光利用						4.0	0.30	-	-	
1 昼光率		事務室の昼光率が高くなるように配慮した				4.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備		頂側窓(ハイサイドライト)を設けている				4.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	-	-	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						4.1	0.25	-	-	4.1
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		内装にはF☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用				5.0	1.00	-	-	
4.2 換気						3.3	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		給気口と排気口は6m以上離されて計画している				4.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.9
1 機能性						4.2	0.40	-	-	4.2
1.1 機能性・使いやすさ						3.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1人あたりの床面積は9㎡以上				4.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		建築物移動円滑化基準を満たしている				4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高:2.8m				4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		執務室面積の1%以上の休憩室(食堂)、自動販売機の設置				5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		インテリアパースによる事前検証を実施している				5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理の容易性に配慮した内装計画等を実施				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		維持管理に寄与する施設機能の確保を実施				5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装材を使用している				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管:SGP-VE(=VLP)-B、空調冷媒管:CUP(冷媒)(=銅管)-C 排水:VP-B				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水型器具を採用、井水、中水等の利用が可能な計画				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		災害時の電話を設置している				4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			4.3	0.30		-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高6.8m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.028	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重:1F:18,000N/m ² 、2F~6F15,000N/m ² 。	5.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性	ラック、配管配線:構造材・仕上材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性	ラック、配管配線:構造材・仕上材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40		-	3.6
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物を中心に配置、植栽による周辺との景観調和に配慮	5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性							4.0
LR1 エネルギー			-	0.40		-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制							
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.38 /	5.0	0.63		-	5.0
4 効率的運用			3.5	0.25		-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00		-	
4.1	モニタリング	用途別にエネルギー消費量の把握が可能	4.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1	節水	主要水栓の過半以上に節水型器具を採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.1	0.60		-	4.1
2.1	材料使用量の削減	機械式継手、BCP、高強度コンクリート、NewRCSS、ハイベースNEO	5.0	0.11		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル床材:床、タイル:外構、ボード:天井	5.0	0.22		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	分別が容易なLGS壁工法、再利用可能なOAフロア	5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP<50の断熱材を使用している。	4.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.7
1 地球温暖化への配慮		CO2排出量に配慮した計画	4.1	0.33		-	4.1
2 地域環境への配慮			3.7	0.33		-	3.7
2.1	大気汚染防止	オール電化を採用している	5.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	「基本蓄雨高100mm」に必要な蓄雨高を確保している	5.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	適切な駐車台数や車両出入口を計画している。	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制						
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明や広告物照明は光害に配慮している	5.0	0.70		-	
2	長光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	